

宮崎県立看護大学大学院看護学研究科 平成28年度博士論文要旨

看護技術修得過程における学生の 自己評価の発展過程

津田智子（基礎看護学）

【キーワード】 看護技術・修得過程・学生の認識・自己評価・相互作用

本研究の目的は、看護技術修得過程における学生の自己評価の発展過程を明らかにし、学生の能動的な技術修得を促進する教育方法を検討することである。

研究対象者は、A大学の看護学生7名である。対象者は授業時間外に既習の看護技術を患者役の学生に実施し、他の研究参加メンバーや研究者とともに技術修得状況に関する振り返りを行い、看護技術を修得するまでこれを繰り返した。研究者は指導者としてこの状況に参画しながらデータ収集を行った。データは、看護技術の実施状況を記録したビデオ記録、および振り返りにおける学生・指導者の発言、そして学生の自己評価記録である。データから学生が実施した看護技術に対する評価を述べている箇所とその評価に至る体験を含めて局面として抽出し、計59の研究素材として再構成した。各研究素材を看護技術の自己評価の一般概念に照らして質的帰納的に分析し、学生毎に各局面における「自己評価の特徴」を抽出した。次に自己評価が変化し発展していく過程に着目し「各学生の自己評価の発展過程の特徴」を、そしてこれらの変化をもたらした「学生メンバー・指導者の関わり」を抽出した。最後に、全学生の自己評価の発展過程の特徴を比較検討し、その共通性から「学生の自己評価の発展過程」を、学生メンバー・指導者の関わりから「学生メンバー・指導者の相互作用の特徴」をそれぞれ導き出した。その結果、以下のことが明らかになった。

1. 看護技術修得過程における学生の自己評価は、

以下の3つの過程を経て段階的に変化し発展していた。各過程には、そこに至る諸過程が内包されていた。

- 1) 自己の認識と行動を中心に振り返る状態から、自己の感情が発動する体験を契機に患者－看護者関係を評価し始め、自分にとっての学習方法を掴み始める過程
- 2) 看護技術の目的に照らして評価し始める状態から、自己の評価内容を能動的に問い直し始め、意識的な学習の積み重ねで看護技術が身についたことを実感する過程
- 3) 看護の判断規準が実感を伴って看護技術の評価規準として位置づく過程

2. 学生の自己評価が変化し発展する過程には、学生が【患者の反応の事実から評価をし直す】【看護の判断規準を描き直す】【看護の判断規準を意識化し自己の変化・成長を自覚する】ことを支援する学生メンバー・指導者の相互作用が存在していた。

抽出された上記の「学生の自己評価の発展過程」と「学生メンバー・指導者の相互作用の特徴」から、学生の技術修得過程を促進する教育方法を検討した。その結果、〈学生の感情の発動の瞬間を捉える〉〈患者を中心に据えた看護技術の像形成を支援する〉〈五感器官を総動員した振り返りを支援する〉〈看護学上の意味ある気付きを学生が意識化できるように支援する〉〈学生の自己評価の質とその変化に着目して支援する〉ことで、学生の自己評価の発展が期待でき、学生の能動的な技術修得を促進できる可能性があることが示唆された。